



和歌山県林業試験場の最新情報

「やまびこ通信」



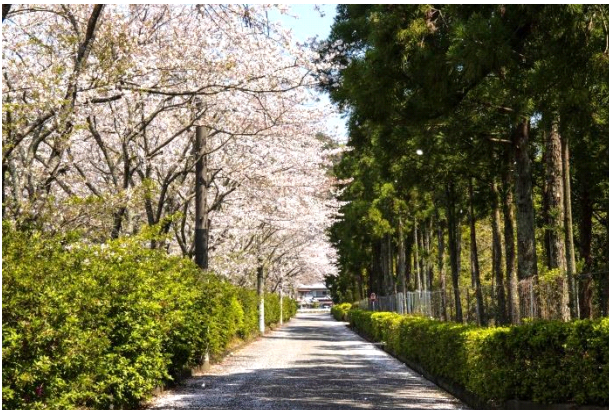
■ 令和2年度試験研究がスタート

本年4月、4名のスタッフが入れ替わり新たな気持ちでスタートしました。私もこの4月の定期異動により当試験場に赴任してきました。よろしくお祈りいたします。

さて、本年度も昨年度に引き続き、本県の「林業・木材産業の成長産業化」や「多様で健全な森林づくり」をめざし、「低コスト林業推進技術」「健全な森林づくり技術」「紀州材の需要拡大のための利用・加工技術」「特用林産物の安定生産技術の確立」の4つを重点事項として試験研究や技術開発に取り組んでまいります。

農林水産業競争力アップ技術開発事業では、昨年度からの継続4課題に、新たに採択された2課題を加えた6課題について、試験研究に着手しています。

また、このうち2課題については、今年度が最終年度となっていますので、来年2月の成果発表会では皆様にすぐにでも活用して頂けるような成果報告ができるよう、取り組んでまいります。



本格的な利用期にある県内の森林資源を有効に活用して、林業の振興や山村地域の振興を進めるためには、当試験場として、地域のニーズを的確に把握し、試験研究や技術開発に取り組むことが大切であるということは何となくありません。

そのためにも、職員一同アンテナをより一層高くし、日々の業務に取り組んで参りますので、本年度も当試験場の試験研究の推進にご支援とご協力をよろしくお願いいたします。

(場長 西山 久雄)

令和2年度 農林水産業競争力アップ技術開発事業の新規2課題がスタート！

■ 県産スギ大径材に適した心去り平角材等の生産技術の確立及び強度特性の解明 (R2~R4)

県内の人工林は長伐期化を背景に原木の大径化が進んでいるため、今後スギ原木供給の中心が柱取り寸丸太から大径材へシフトすることが予想されます。大径材の特性を生かす製材方法として、1本の原木から複数の柱・梁材を生産する心去り製材法がありますが、県産材における心去り製材のヤング係数の分布や強度の検証が行われていないのが現状です。

このため、今後供給増加が見込まれるスギ大径材の需要拡大のため、梁桁材の心去り製材品の生産技術の確立を目的として、県産スギ平角材の強度特性の検証を行います。(岡本)



スギ心去り製材品



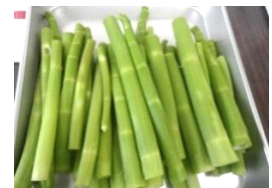
木材の曲げ強度の測定

■ イタドリの長期安定栽培技術の確立および一次加工品と根茎利用技術の開発 (R2~R4)

イタドリは本県の山間地域で広く食されており、また、栽培及び加工マニュアルによる啓発により、近年栽培に取り組む地域の増加とともに、新商品が各地域で生まれています。

しかし、長期栽培による収量減少事例が見られ、消費拡大のため利便性の高い加工品の開発やレスベラロールを多く含む根茎の利用開発が望まれています。

このため、イタドリを活用した“地域の稼ぐ力”をより強くするため、長期安定栽培技術の開発や保存・流通に適した一次加工品の開発、根茎の化粧品利用など新たな分野での利用技術の開発を行います。(杉本)



茎の一次加工品開発



根茎の化粧品原料への活用

令和2年度 研究スタッフの紹介

■経営環境部

山本 正哉：部長
法眼 利幸：病虫獣害対策
斉藤 雅一：育種・種苗生産
山下 由美子：造林・育林
的場 彬通：育種・病虫害対策・林業機械
＜中辺路試験地＞
城戸 杉生：種苗生産

【トピックス ー研究施設の紹介ー】

クマノザクラの挿し木増殖やクローン増殖が必要な樹種の増殖技術開発のため、ミスト温室を建て替えました。施設内は、最適な照度、室温管理のため、天窓、遮光カーテンの自動開閉装置、自動灌水タイマー、ヒートポンプを設置しました。育苗ベッドには硬質鹿沼土と特注の培養土を投入しており、様々な段階の苗木の育成に関する試験研究に対応できます。（的場）



■木材利用部

東山 貢：副場長（木材利用部長）
池田 丈彦：庶務担当 林業普及指導員
岡本 憲治：木材強度・木質バイオマス
一岡 直道：木材加工・保存・乾燥

【トピックスー研究スタッフの紹介ー】

本年度より林業試験場に配属となりました、一岡 直道と申します。一年目で試験研究ということもあり、不安や戸惑いもありますが、一年目は、知識・経験・慣れの3つを柱にし、業務に励む所存です。今後ともよろしくお願いたします。

現在は、「県産未利用材(シイ)の建築資材等への利用拡大のための技術開発」の最終年度を担当しています。

新型コロナウイルスの影響もあり、現在出来ることは限られていますが、出来る限りの中で精進して参ります。（一岡）



■特用林産部

坂口 和昭：部長
田中 作治：花木の栽培管理、紀州備長炭
杉本 小夜：山菜、きのこ、木の実
中谷 俊彦：研究業務の補助

【トピックス ー研究の状況ー】

サカキの葉に白い斑点被害が現れるオビヒメヨコバイ族の一種（新種）の薬剤散布と施業による防除技術を確立する研究について、3種類の薬剤効果試験が完了し、薬剤メーカーにより農薬登録の手続きが進められています。（田中）



イタドリの増殖と機能性成分の活用に係る研究について、加工・活用マニュアルとして「わかりやすい イタドリの昔ながらの加工と新たな活用」を作成しましたので活用してください。（杉本）



～ 中辺路試験地だより ～

少花粉スギの種子採取はじまる

平成24年度に造成した少花粉スギミニチュア採種園から種子が採取できるようになり、令和元年10月には球果で31kg採取し、精選後1.3kgを生産者に配布しました。採種園の面積0.39haを3区分して連年ジベレリン着果促進処理をするため、毎年3分の1の面積からの採取となります。当種子の発芽率は35%でした。



少花粉スギはこの他に採種園も造成しており、種穂併せて、花粉症対策の発生源対策となるよう今後も事業を行っていきます。（城戸）

編集・発行 和歌山県林業試験場

〒649-2103 西牟婁郡上富田町生馬1504-1

TEL: 0739-47-2468 FAX: 0739-47-4116

※『やまびこ通信』は「和歌山県林業試験場のホームページ」にもアップしています。